

# 看護の力で安心の生活を支える拠点づくり。

認定看護師特集

西尾市民病院



高い水準の看護を実践し、看護師たちをリードしている5名の認定看護師に話を聞いた。現場のスタッフはどんな思いを抱いているのだろうか。特定の看護分野でそして、西尾市民病院もまた、変わろうとしている。そのめざす道について、超高齢社会を迎え、地域医療は大きな転換期を迎えている。

CHAPTER 専門的な看護の力を専門的な看護の力を

抱えながらも生活の質を維持していく完治をめざすキュア中心から、病気を換しつつある。医療の中身も、疾病の換しつつある。医療の中身も、疾病の病院で治す医療から、地域全体で治

うやく自宅に戻ってもご家族が介護に うやく自宅に戻ってもご家族が介護に うやく自宅に戻ってもご家族が介護の を在宅へ橋渡しすることの難しさを んを在宅へ橋渡しすることの難しさを 感じています。独居の方、老老介護の 感じています。独居の方、老老介護の 感じています。独居の方、老老介護の 感じています。独居の方、その で大帰など、皆さん事情を抱えていて、 すんなりと帰れないんですね。また、よ

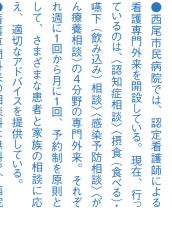
定看護師の畑中英子である。をう語るのは、摂食・嚥下障害看護認疲れ果ててしまうケースもあります」。

せん。その後の長い療養生活に困らなの長い人生のなかのごく一部に過ぎまることだと思います。入院は患者さん院のスタッフがもっと在宅に目を向け院のスタッフがもっと在宅に目を向けには何が必要だろうか。「一つは、当

ことが多いという。「介護施設を訪問し ので、青木は他施設から相談を受ける はほほえむ。 いてレクチャーしています。 頼りにしてい て、インフルエンザの予防対策などにつ 看護師がいるのは、市内で同院だけな ただけることがうれしいですね」 と青木

を地域へ送り出すには院内の理解と協 て支援しなくてはなりません。そのた いよう、入院中から生活の視点を持つ す。たとえば、感染対策を専門とする 精一杯お役に立ちたいと思います」と、 看護でお困りのことがあれば、私たちが 当院だけではなく、西尾市全体です。 が続く 同院において、 貴重 なマンパワー び出している。だが、深刻な医師不足 応え、認定看護師が積極的に地域へ飛 す。認知症の方が入院中も退院後も、 の方々に指導する活動に力を注いでいま に、認知症への適切な対応方法を地域 持っています。 その不安を払拭するため 戻る場合、周囲の方々はすごく不安を 切です。たとえば認知症の方が在宅に その後もずっと寄り添っていくことが大 ける。「また、退院して終わりではなく 症看護認定看護師の余語華代は話を続 めのスタッフ指導に力を入れています」 力が必要だろう。「確かにその通りです が目標です」。 同院では地域の要請に 穏やかに生活できるよう支えていくこと 感染管理認定看護師の青木美由紀は話 (畑中)。その言葉にうなずいて、 医療資源不足に苦しんでいるのは





●看護専門外来の相談料は無料で、病院 の診療報酬に算定されるものではない。し かし同院では地域のニーズに応え、採算を 度外視して、病気と共に生きる患者が安 心して療養生活を送れるよう支援に力を注 いでいる。また、この看護専門外来は、同 院の医師不足を補う役割も果たしている。 患者の相談内容によって診療が必要と判断 された場合、各診療科の医師に速やかに連 された場合、各診療の水先案内の機能 受けられるよう、診療の水先案内の機能 受けられるよう、診療の水先案内の機能 も果たしている。



うた 中日新聞 「リンクト」 **LINKED Plus**+

看護専門外来

構築しようとしている。 病院から在宅へ患者が 増えるなか、西尾市民病院は 仕組みを、看護師が中心になって 安心して生活できるような 帰れるように、そしてその後も 高齢者の独居・老々世帯が 域へと視線を広げる。 人が65歳以上だという。



CHAPTER 拠点を作る。 繋ぎ、生活を守る 看護師が多職種を

けるのに、という自負がありますから」。 える関係づくりですよね。今は当院と かおりは話す。「大切なのは、 いと思います」と高須。その言葉に続 用していただけるようアピールしていきた さんに、私たちを、そして、当院を活 でいこうとしている。「もっと地域の皆 きな病院に通う方がいらっしゃると非常 による抗がん剤治療なのに、 が自慢ですが、理解されていない側面も ようとする熱心な姿勢は、 と地域を結び、安心の在宅療養を支え 看護師たち。近年は看護専門外来(詳 高須たちは地域への働きかけに力を注い に残念に思います。 私たちならもっと身 あります。 たとえば、 同じガイドライン 当院はキュアだけでなく、ケアの手厚さ 法看護認定看護師の高須由江は首を構 に伝わっているのだろうか。 がん化学療 人々の相談に幅広く応えている。 しくはコラム参照)も開設し、 護の力を引き上げるべく努力する認定 そんな悔しい思いをエンジンとして 院内はもちろん、 がん性疼痛看護認定看護師の西村 療養生活をきめ細かく支えてい 「残念ながら、まだまだですね。 地域においても看 市民に充分 市外の大 地域の 顔の見 病院

> す。 す。 れると思います」。 からも、選んでいただける市民病院にな んからも、 える仕組みを作ることで、 考えています。 う方々と集まる機会を設けていきたいと 次の病院や施設、そして在宅医療を担 域連携のネットワークが必要だと思いま それを〈面〉に広げていくような地 そのために退院後の受け皿となる 医療・介護にたずさわる方 多職種で患者さんを支 市民の皆さ

> > の力で安心の生活を支える拠点づくり を進めていこうとしている。 看護師たちは自らが先頭に立ち、 る拠点が求められている。 地域全体で患者を支える時代にあっ 地域ごとに医療も生活も相談でき 同院の認定 看護

て、

# **STAGE** 育てる重要性。 生活を支える拠点を

**BACK** 

の両面において退院後の生活を末長く支え け入れる救急医療機能を備え、 患者の療養生活を支えていく社会で重要な 医療への移行が進められている。 地域全体で るように、 へときどき入院、 療養中に病状が急変すれば、いつでも受 困ったらいつでも相談できる拠点だろ 病院中心の医療から在宅中心の ほぼ在宅〉と言われてい キュアとケア 超高齢化が

ことを知り、 みは、 うに地域を守ろうとする市民病院の取り組 て応援していくことが、 に取り組んでいる。 それはまだ道半ばではあ 進展するこれからの社会的課題ともいえる。 る私たち生活者にとって、 認定看護師をリーダーとする看護の力をフル 西尾市民病院は、その難しい命題に挑む。 確実に一歩ずつ前進している。 このよ あまり知られていない。しかし、その 安心の生活を支える拠点づくり 理解し、 自分たちの病院とし 超高齢社会を生き 大切な心がけでは

#### 企画制作

地域が、いくつかの〈点〉で繋がっていま

### 中日新聞広告局

#### 編集協力

#### 西尾市民病院

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6 TEL 0563-56-3171(代表) FAX 0563-56-8966 http://nishio-shimin-byouin.jp/

#### 中日新聞広告局広告開発部 TEL 052-221-0694

FAX 052-212-0434

#### プロジェクトリンクト事務局

TEL 052-884-7831 FAX 052-884-7833 http://www.project-linked.jp/

## プロジェクトリンクト



LINKED VOL.32 タイアップ

